

わが校の紹介

「協和」の建学精神と
「よく学び、よく遊び、
よく働き、仲良くせよ」

養父市立高柳小学校

校長 田中 勲

新校舎の完成という歴史的な出会いに恵まれました。7月11日、高柳小学校竣工式が行われました。完成した新校舎の特色を紹介します。

まず、各部屋ともゆとりのあるゆつくりとした空間になっています。学年教室では、新世代学習空間として、ワークスペースや可動壁など多目的授業や少

人数授業が可能な教室空間があります。また、多目的ホールの利用として、毎日の給食はもちろん、全校・児童集会、PTA集会、講演会、展示会などに使える広い部屋もできました。

体育館をはじめ地域開放の校舎となり「ふれあい祭り」などにも利用していただいています。さらに、各階には身体障害者用トイレやエレベーターがあり、全館冷暖房完備で快適に学習ができるようになりました。

私たちは、高柳小学校の長い歴史と伝統を引き継ぎ、新校舎完成ということ为契机に、素晴らしい施設を活用して、「子どもの健全な育成」におお一層の努力を重ねていきます。

この新校舎で、「協和」の建学精神と「よく学び、よく遊び、よく働き、仲良くせよ」の校訓を基盤に据え、先人の築いてきた高柳の里の素晴らしい歴史と風土に学び、自ら学ぼうとする積極的な態度を育てるとともに、知・情・意・体の調和のとれた教育を進めます。

そして、未来社会の創造者となるための基礎をしっかりと身につける教育の推進と、学校教育目標「ふるさとを愛し、心豊かでたくましい高柳っ子」の育成に全職員一丸となって取り組みます。

また、地域や保護者のみなさんに感謝しつつ、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に地域に守られ育てられる学校づくりなど、地域に愛される学校経営に努めてまいります。



養父市には、家庭や地域が気軽に利用できるスポーツ施設がたくさんあります。運動場や体育館、テニスコート、プールなど、それに各小中学校の運動場や体育館を入れると大変な数です。その割に、そこで家族連れの姿をあまり見かけることがないのが残念です。

国の調査では、青少年の体力・運動能力が低下傾向にあることや、運動不足と運動のやりすぎの二極化現象が進んでいることを上げ、その原因として子どもたちの身体活動の時間が少ないことや生活環境・習慣の質的変化を指摘しています。

また、医学界からも、子どもの動脈硬化・糖尿病・高血圧などの生活習慣病について、食生活と運動不足の点から注意が促されています。

以前は、地域での豊富な遊びによって、知らぬ間に子どもたちの体は丈夫になっていきました。今は、「健康は自分で作り上げるものだ」ということを親子で意識することが必要です。冬はどうしても運動不足になりがちです。家族一緒に体を動かすことの楽しさを味わいに出かけましょう。(学校教育課)

窓 冬の健康づくり

まちの文化財 ⑱

加保村の藤堂高虎

大屋のあゆ公園の隣に、高さ4mを超える杉の丸太に「藤堂高虎ゆかりの里 大屋郷・加保村」と書いた記念碑が建っています。

藤堂高虎は、関ヶ原の合戦で徳川家康に味方し、最後には伊勢国の津城主として32万石の大名になりました。藤堂藩が高虎の足跡をまとめた「高山公実録」という書物によると天正8年(1580年)、

高虎は加保村の武士・柝尾加賀守(源左右衛門祐善)の屋敷に寄宿しました。翌年、小代一揆の平定後、3千石を加増されて銃長になったと言います。

この頃、柝尾加賀守の媒酌で、香住の中野村に住む一色氏の娘と結婚しました。この人が津城主の奥方として慶長20年まで生存した久芳夫人です。記録には「(柝尾)加賀守宅



にて御婚礼御調、(高虎)西国筋御出陣の中へ、加賀守預り居申候、紀州古川(粉河)へ送り申候」と書かれています。高山公実録は、柝尾祐善を但馬における高虎の重要な後見人と伝えています。

大屋公民館大屋町史編集室の桐村明昇さんは「高山公実録は、なぜか加保村とは書かずに養父郡大屋とだけ記録しています。羽柴秀吉が鳥取城攻め

の途中で、高虎を訪ねて柝尾加賀守屋敷に立ち寄り、厚弁当をとつたとも書かれています。高虎が出世する出発点が大屋であると考えて間違いのないでしょう」と解説しています。

藤堂高虎は、天正4年に羽柴秀長に3百石で仕官しました。秀長は天正8年に出石城主になり、但馬で10万石を治めました。高虎はその有力武将として大屋付近で3千3百石を知行する領主となり、加保村で結婚したと考えられています。(社会教育課)